

又曰始[○]事建中初崔寧女以金盞無儲病其熨指取楮子承盛之既瘳而傾乃以蠟環楮子中坐之盃遂定即遣匠以漆環易蠟寧奇之製名托子遂行於代後傳者更環其底

〔煎茶訣〕乾[○]茶托和名ちやだい

錄[○]錄[○]茶に茶囊譜[○]茶に茶托圖[○]茶具に漆雕秘閣などいへり今俗間に用ふる高茶臺[○]は全く

漆彫秘閣を摸せるものにしてこゝに圖せるは今の煎茶家に用ふる舶來新渡の形にて却て後世のものとなるべし銅錫磁さまざまのかたちもあれど此類の古色を存せるもの近今の舶來には絶てなし

〔蔭涼軒日錄〕長享二年正月十五日相公曰茶湯器托子無葉洒水器之托子有葉如何總而如此之物乎愚白不相定者也然上者只可爲上意

延德二年十一月十二日[○]中又遣泉里云當年未請待今晚有閑暇者來訪爲幸云必可參自芳洲沽

却建盞一ケ同托子一ケ金絲轉曲賜之必可買得云々代三百疋云々[○]下

〔世間手代氣質〕^四且那を尻に敷火燧温かな手代が懷中

万たしなみふかく連れて來た腰元に茶臺にて茶をはこばせ[○]下

〔渡世身持談義〕^一抜目のない始末の談義利の強ひ世帶藥

次男に鼓を打習はせ女房娘に不斷鹿子の襦袢著せ常住高[○]蒔[○]繪[○]の茶臺にて茶を運ばせ[○]下

〔臨時客應接〕^納敬茶碗は湯の沸たつ間に拭て置べし

〔煎茶訣〕^乾茶盞室[○]

〔煎茶早指南〕^納盞筒[○]

〔茶經上〕^卷盃以白蒲捲而編之可貯盃十枚或用筥其紙靶以刻紙夾縫令方亦十之也

〔煎茶早指南〕竹の筒の茶わん入は高翁もいまだはからざるの佳境なり尤竹のうつくしきをる